

障害者・外国人雇用が拓く地域農業の取り組み

有限会社吉備高原ファーム（吉備中央町田土1053-5）

TEL：0866-54-1449 / URL：https://kibikougen.co.jp/



« 岡山の魅力発信 »

HPはこちら▶



経営概要

経営面積	・農地面積：約9ha（とうもろこし 約7ha、ぶどう 約3.5ha、その他野菜 約1ha）
主な事業	農産物の生産・販売のほか、農福連携事業、
代表者	代表者 山本 陽子 設立：H18年
労働力	正社員（4名）、障害者雇用（6名：B型事業所）、パート（1名）、外国人期間労働者（3名：インドネシア人）
取組の経緯	中山間地域を抱える吉備中央町にて、農産物の生産・販売に取組む中、担い手の高齢化による耕作放棄地解消のため、雇用拡大し、地域農業の維持・発展に従事。



取組内容

農福連携	・B型事業所を別法人で立ち上げ、農福連携に取り組んでいる。 ・障害者の能力に合わせて、作業を細分化し、健常者と障害者の役割分担を明確にし、両輪体制で条件不利地で農業にとりくむ。
外国人労働者活用	・人材派遣会社の仲介により、外国人労働者の期間雇用を実施。農繁期と農閑期の労働を分配。
環境負荷低減の取組	・籾殻をで炭化させた「もみ殻くん炭」は、多孔質構造により、堆肥に混ぜ、消臭効果と、堆肥の中の微生物の住処となり、土壌改良剤として効果あり。グループ会社が「くん炭」製造会社なので、毎年、堆肥に混入して使用。くん炭はバイオマス炭として二酸化炭素削減にも貢献している。
地域インフラ維持への取組	・地域インフラ維持のため、障害者雇用、外国人労働者を活用することで、労働力不足を解消・確保し、地域住民とともに地域の農業の持続性を考えている。



今後の展望

- 引き続き「雇用確保対策」として、外国人の活用拡大を図るとともに、将来につながる新規就農者の自立・定着を目的に、地域の振興と継続を行っていく。
- 障害者雇用の拡大のため、自社の作業方式や作業工程マニュアルの情報発信を行う。

令和7年12月26日現在



ぶどう販売コーナー



品種豊富なトウモロコシ



ハウレンソウ苗の手植え